

# 京都教区時報

発行 京都司教区  
責任者 村上透磨  
京都市中京区河原町  
三条上ル  
カトリック会館  
FAX  
075-211-4345

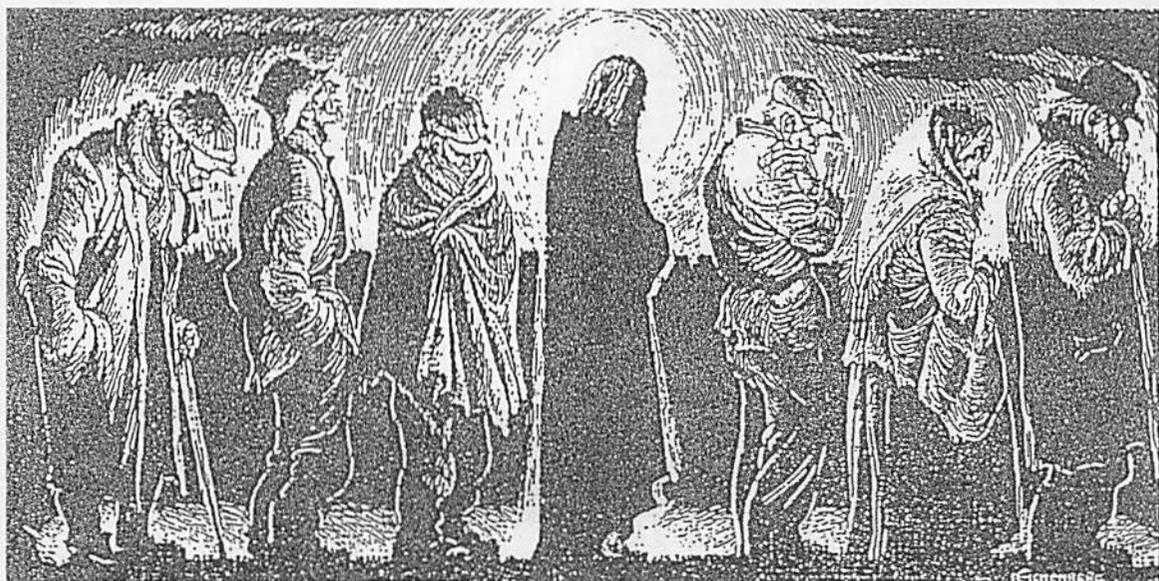
Home Page <http://www.kyoto.catholic.jp> 4345

2頁 濟州・京都教区 姉妹教区縁組 調印式

8頁 ブロック担当司祭一覧

点訳版「京都教区時報」〈無料〉  
ご希望の方は点訳ネット「レジ  
ナ」代表嶽崎(たけざき)裕子さ  
んまでお申込みください。

TEL・FAX 0794-31-8601



## 貧しい人々の中の

### イエスの現存

私たちが共に捧げるミサは、都  
会の大聖堂でも、町の教会の小聖  
堂でも同じ心でお捧げします。

共に集まった信仰の仲間ととも  
に、また特に、共に集うことので  
きない方々、病気の人の、主の御も  
とに召された方々のためにも、心  
を込めてお捧げします。

かつてマザー・テレサは次のこ  
とを言われました。

「私は一日に二度、イエス様と出  
会います。一度はミサの中で、も  
う一度は街中の貧しい人々の中で。」  
生きるために、神にすがりつく  
しかない人を、聖書の中では「貧  
しい人」という言葉を使って表現  
することがあります。

神様は、聖人たちや信仰の先輩  
たちのあかしによっていつも教会  
に新しい力を注ぎ、限りない愛を  
示してくださいます。私たちもそ  
の模範に励まされ、取り次ぎの祈  
りに支えられ、信仰の歩みを続け  
ましょう。

(外崎 豊)

(上の絵について  
の解説が、12ペー  
ジにあります)

8  
2005

## 濟州教区京都教区姉妹教区縁組 調印式・ミサ 大塚司教の説教

6月7日(火)、濟州教区・京都教区姉妹教区縁組調印式が、濟州教区から姜司教、事務局長尹神父、司牧局長高神父を迎えて、カテドラル河原町聖堂でのミサの中で行われました。

ミサの中での大塚司教の説教、当日の模様、調印文書の内容などを紹介します。

姜禹一司教様、尹神父様、高神父様、ようこそ、京都にお越しくださいました。京都教区司祭、修道者、信徒一同を代表して、心から歓迎のことは申し上げます。そして、このたび濟州教区と京都教区の姉妹教区縁組が整いましたことを、司教様をはじめ、濟州教区の皆様に感謝申し上げます。このミサで共に父なる神さまに感謝と賛美をお捧げできますことを本当にうれしく思います。

### 1. 「日韓司教交流」について

さて信徒の皆さん、まず、このたびの姉妹教区縁組のきっかけと



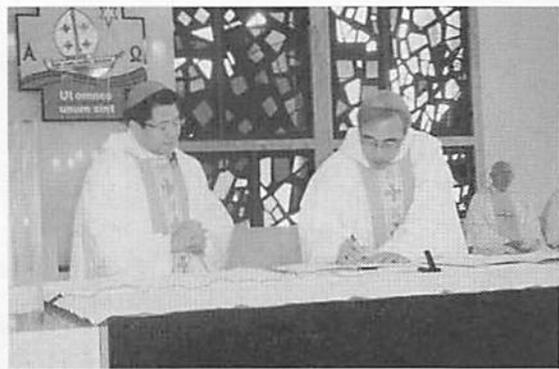
なった「日韓司教交流」について説明したいと思います。この交流会は、10年前1995年にフィリピンのマニラで開かれた第6回アジア司教協議会連盟総会での、当時の日本の会長濱尾文郎司教と韓国カトリック司教協議会会長、李大司教との出会いをきっかけに始まりました。第1回は、李大司教の「韓国と日本のカトリック教会

で、同じ神を信じるキリスト者として、共通の歴史認識を共有するために協力し合えないか」という呼びかけで、1996年2月に日本で開催されました。そこで、両国の司教同士が、親睦をかねた年1回の交流会と研修を継続、発展させていこうということになりました。

こうして、毎年日本と韓国を相互に訪問する「日韓司教交流」が始まりました。姜司教は、「日韓司教交流」の窓口をされており、記念の第10回は昨年11月、濟州教区で行われました。

毎回、日韓の歴史の講演を聞いて、勉強しました。また、お互いの教会のことも知りたいという要望で、司牧の情報交換も行います。昨年は、日本から、私が「京都教区の共同宣教司牧の歩み」を紹介し、韓国は、姜司教様が「濟州の福音化」について講演してくださいました。

こうして「日韓司教交流」はこれからも継続して続けていこうということになりました。その中の意見で、「日韓両国の教区が早い期間中に皆姉妹関係を結んで、交流の範囲を司祭・信者まで広めて行きたい」という意見がありました。



た。以上のような「日韓司教交流」の流れで、今年2月濟州教区の姜司教様から京都教区と姉妹教区縁組のお申し出があり、京都教区も喜んで、姉妹教区縁組を結ぶことにしました。

### 2. 姉妹教区縁組の目的と意義

次に、姉妹教区縁組の目的と意義についてお話しします。姉妹教区の意義は、調印の辞にあるように「初代教会から受け継いだ神の民の交わりを深めること」にあります。教会は第2バチカン公会議が

確認したように「神の民」です。初代教会から司教たちは隣の教区や困っている教区のことを互いに配慮しながら助け合ってきました。この「神の民」の使命は「地の塩、世の光であること」です(『カテキズム』N1782)。教会憲章はこう言います:「神の民は、現実にはすべての人を含まず、またしばしば小さな群れのように見えるが、全人類にとって、一致と希望と救いのもっとも堅実な芽生えです」と(教会憲章9)。そして、「この民は、生命と愛と真理の交流のためにキリストによって設立され、すべての人のあがないの道具として採用され、世の光、地の塩として全世界に派遣されている」と。日本も韓国もアジアの中で、2000年のカトリック教会の歴史中では、宣教の歴史は浅く、また小さな群れです。しかし、この神の民の小さな群れも、神の民の交わりによって、「一致と希望と救いのもっとも堅実な芽生え」になることができるのです。その意味で、このたびの「済州教区京都教区姉妹教区」縁組は、大きな意義とまた大きな使命があります。

### 3. 済州教区について

済州島は、朝鮮半島の南西端、沖合100キロメートル辺りにあります。日本から見ると、長崎県平戸の真西200キロメートル辺りにあります。面積は大阪府程度で、人口は約50万人です。リゾート地として、韓国のハワイとも言われています。日本からの韓国観光旅行先として、ソウル、慶州、釜山などに並んで人気の場所です。済州教区は、済州島を中心とした教区で、カトリック教会は23あり、カトリック信者は5万8千人です。また済州島は多くの殉教者を出した聖地でもあります。

### 4. これからの交流

これからの交流のために、「アジア交流委員会(KYOSIA)」の中に、「京都済州姉妹教区交流部」を設置しました。

両教区が教区全体のレベルで親密になり、両国の歴史と文化の相互理解を進め、主イエス・キリストに招かれた福音宣教の仲間として共に祈り励まし合いながら、両国をはじめアジアと世界の友好と平和のために奉仕したいと思えます。

最後に、私たちの交流を

「教会の母」である聖母マリアにお捧げしたいと思えます。母マリアが、私たちの姉妹教区の歩みを見守ってくださいますように祈りましょう。今年「聖体の年」です。いのちの糧に養われて、今日から始まる私たちの姉妹教区の歩みを、父なる神さまが祝福し、福音宣教のよき道具としてお使いくださいますように、お祈りしたいと思います。

天.済.教 2005-055  
Kyo.Prot.N.65/2005

#### 済州教区・京都教区 姉妹教区縁組調印の辞

この度、私たち済州教区と京都教区の間で、昨年第10回を迎えた「日韓司教交流」のひとつの果実として、「姉妹教区」の縁組を結びます。

私たちは主イエス・キリストに招かれた福音宣教の仲間として、共に祈り励まし合いながら、初代教会から受け継いだ神の民の交わりをさらに深めるため、教区民全体のレベルにおいて多様な交流を推進していきたいと思えます。

また、この姉妹教区縁組を通して、韓国と日本の歴史と文化の相互理解を進め、両国をはじめアジアと世界の友好と平和のために奉仕したいと思えます。

済州教区

+ Peter Kang  
司教 ペトロ 姜尚一 同教

京都教区

+ Paul Y. Chulso  
司教 パウロ 大塚喜直

聖体の年 2005年6月7日  
京都カテドラル河原町教会聖堂にて



聖書講座シリーズ「マタイ福音書を読む」5/18・19

## イエスの幼年物語 (第1の序)

昌川 信雄神父 (クラレチアン会)



福音書をマタイが書いたとき、それを読んで欲しいと考えた対象

は、ユダヤ人でした。ユダヤ人は、

繁栄したダビデの王国からわずか500年後、イスラエルの壊滅に際して、自分たちの罪のせいであると考え、それから徹底的に律法を守ることにしたのです。しかし、そのときのユダヤの指導者たちは、本当の神の声ではなく、ダビデ王国の繁栄の再来を目指した、律法主義者やファリサイ派の人たちでした。かれらは律法を守らない人は治安を乱すとして死刑にさえていました。

そういう指導者たちではなく、ユダヤ人の本当の神の真意に気付いたアナヒムと言われる貧しい人々がいました。洗者ヨハネは、その人たちの中から出てきたと言われます。人間のいのちは、物質的なものではなく、愛され大切にされ

るといふ、無償の愛が必要なんですね。繁栄した日本では、ゲーム機や小遣いを沢山与えられ、本当に大切なものを与えられないで育った子どもが人間になれないで叫んでいるのです。

親は子どもを自分の価値観により育てようとしています。親の期待どおりに一流大学を出て、一流会社に就職した青年がいます。ところが、「ぼくは両親が敷いてくれたレールに乗り、未だに一度も本当の喜びがなかった」と言っていて、全てのものを失って心の病になって家に帰りました。青年は「こんなになつたのは全てあなた方親の責任である」と親を責めます。その青年と母親が私の所にやってきました。青年は「ぼくは穏やかな顔はしていますがだまされたくないでください。心の中に修羅がいます。マスメディアが喜んで飛びつく事件を今にでも起こしそうな気がします」といいました。その2、3日後、その青年の家が焼けたと聞

き、とうとう放火したのかと全身が凍り付いたようになりました。それは裏の家から火が出て類焼したのです。その青年は家族を前に、「これは災難ではありません、恵みです」と言い放ち、エリート

の弟をかんに怒らせました。両親は必死になって子どもの目線に立とうと苦労しています。ようやく自分の住む家を用意出来て私のところにあいさつに来ました。私は家具類か何かそろえましょうかと言ったら、母親は「神父様それには及びません。私たちは箸1膳、茶碗1個あれば食事を済ませることが出来ることを今知りました。これまで何一つものがありがたさが分からない生活をしていました。いまこそ、このありがたさを味わいたいのです。」と言いました。

人は人生の険しい山の最も価値がある頂上にたどりつくために必死の努力をします。ところがその山は人間の価値観であり、頂上に着いたときそこに本当の価値があるのではなく、隣の山こそ神に届く場所であることが分かります。しかし、それが分かったときに再び降りて隣の山に登る勇気はもうありません。隣の山は福音の価値観、神の思いであり、手前の山は

人間の価値観、自分の思いです。そこから勇気をふるって降りていった人にアシジのフランシスコがいます。豊かな生活の中では足蹴にしていたらい病人を抱きしめるとき、貧しい人は幸いである、という至福を体験したのです。

マタイは、神の思いではなく、自分の期待に答えられなかった親を殺して、自らみなしごになったユダヤ人や私たちに向かって書いたのです。マタイの視点は、殺してしまつたイエスこそ、その人だつたんだよという結論です。

その結論からさかのぼって幼年物語を書いたのです。そこでは伝統的なユダヤ人のメシア待望と違つた非メシア的出来事が示されています。まず、聖なる民族として誇つた系図に女性を入れ、父のない子をメシアとし、そのメシアはイスラエルからエジプトに渡って、ベツレヘムではなく異国のナザレ人として育ちます。

またヨゼフが神に近づくのを助けてマリアから離れようとしたこと、博士たちへ星の導きがあったこと、すなわちイエスの人間を超える権能を示して、ユダヤ人の思考世界の中でイエスの権能を見出す方法がないことを示すのです。

## 多国籍共同体に向かう事例

## 西院教会

坪井登得子・河原田真弓

約6年前、主にフィリピンからの滞日外国人の共同体・バガサコミュニティ(以下、バガサといいます)が西院教会に移ってきました。それをきっかけに、子供は夏期学校で、大人は年に数回の交流ミサ&パーティーを通じて西院教会とバガサの関わりが始まりました。毎日曜日午後3時からの英語によるバガサのミサには、午前中のミサに行けなかった人や、英語やフィリピンの事を知りたい若い人達も時々参加するなど、少しずつ交流の輪は広まっているかのように見えました。

しかし、掃除の仕方に始まって、教会施設の使い方、言葉の違いによる連絡の行き違い(英語での確に伝えられる西院の担当者がおらず、また日本語をきっちり理解できず、またバガサの担当者がいなかったこと等)、文化的背景による発想の違い等により、双方の担当者の間には少しずつ誤解と偏見が広がっていきましました。これでは共同体としてお互いを受容れ理解するため歩み寄るどころか、溝が深まる

ばかりです。

両者間のストレスは昨年末頂点に達し、ついにルカ師同席のもと、西院教会とバガサの関係者が一堂に集まり、通訳を介して話し合いを持つに至りました。初めての合合は、各人が率直に思いを吐き出して話し合った結果、様々な誤解と偏見が解けたうえ、西院側から改めて教会施設使用ルールが伝えられ、お互いが協力できる内容を検討する事、バガサから、自由に使用できる一室を貸して欲しいとの要望が伝えられるなど、実り多いものでした。検討事項は、それぞれの共同体に持ち帰り、年明けに双方の役員で2回目の話し合いが行なわれ、少しずつ両者間での協力内容が具体化されました。

この間強く感じたのは、教会施設に対する見解の違いです。一方は、教会施設は、その共同体が管理責任を負い、所有権を有するという考え方。他方は、全てのカトリック信者に使用する自由があるという考え方。話し合わなければならぬことは、まだまだあります。この異なった見解が一致に向かい、お互いの偏見がなくなるよう、また、双方の理解と親交が深まるよう願ってやみません。

## ブロック紹介

## 京都南部北ブロック

衣笠教会 岡崎 知夫

北ブロックは、小山、西陣、西院、宇津、山国、衣笠の6教会からなり、2名の担当司祭、1名の協力司祭により司牧されています。宇津、山国はこの4月から右京区に編入されましたが、一番近い衣笠教会から車で1時間近くの巡回教会で、月に1回ミサが行われています。

今年度の北ブロックのテーマとして、いろいろな意見交換した後、『ミサにもっと参加しよう』と定められました。第5日曜日はブロック合同ミサを教会持ち回りで、顔なじみになるのに役立っています。ただ、合同ミサの参加者は、各教会で行われるミサの参加者合計からかなり減りますが。

ブロックの話合いが進んで、多くのことが共同で行われるようになりました。まず広報部ではそれぞれの小教区教会報とは別に、ブロック広報紙が作られるようになりましました。典礼部では、合同ミサについて具体的な準備、当日の役割分担などが話し合われます。聖体奉仕者勉強会も、参加する人

の都合を考え、同じ内容を2回に分け、場所を変えて行われました。集会所司者や聖体奉仕者の交換についても話が出ましたが、まだ時期尚早というところでした。子どもの教育部は、合同のキャンプについての話し合いが繰り返され、今年も7月に行われます。

平和への歩み委員会は、今年度の年間行事として舞鶴の引揚げ記念館訪問と京都北部教会との交流計画を立て、そのための学習会を各教会で進めています。

ミサはカレンダーを作り、どの教会でも3回の日曜日は3人の司祭のミサ、1回は集会祭儀、第5日曜日がある場合はブロック合同ミサとなります。このようにきちんとした形になるために、4つの教会がお互いに調整して、長年続けてきたミサ時間を2教会は9時から、2教会は10時半からと変更しました。

ブロックが一つになりつつある成果として、山国教会のトイレが老朽化して新しくしたいのだが、何しろ小さい教会で蓄えもないという話があったとき、北ブロックの教会が教会から支出したり、信徒から献金を集めたりして協力し、完成することが出来ました。

## 養成コース案内



## 福音センターニュース



## 滞日外国人とともに

あなたがたはキリストの体であり、また一人一人はその部分です。

一つの部分が苦しめば、すべての部分が共に苦しみ、一つの部分が尊ばれば、すべての部分が共に喜ぶのです。(1コリ12参照)

京都教区のカトリック信者総数の69%は滞日外国人です。地域によってその人数が目立つ小教区と目立たない小教区とがあります。言葉や文化は違っても信徒として、同じ主を礼拝し、賛美して、命の糧をいただくために教会に集まってきます。

けれども、主に集められた共同体として歩むのに様々なとまどいや問題が生じています。

どのようにすれば多文化共同体の恵みと豊かさを育て生かし合うことができるのでしょうか。

今回は多文化社会でのかかわりを研究し、実践をつんでおられるニボン氏をお迎えし、聞き、学び、意見を分かち合い、滞日の方たちと、「ともに歩める共同体」へと歩み寄れる研修会となるよう願って準備しています。これからの教会共同体の姿を考えるためにも一人でも多くの方の参加をお待ちしています。

日時 2005年9月17日(土)14時～18日(日)15時

場所 カトリック野外礼拝センター(奈良・近鉄・京都線 高の原駅下車10分)

対象 関心のある方ならどなたでも。日本人・外国人問わず

申込み 9月7日(水)までに

郵便番号・住所・氏名・電話／ファックス・Eメールアドレスを振込用紙にご記入の上、参加費6,000円を下記へお振込み下さい。

郵便振替口座(00920-4-161844 カトリック福音センター養成コース)

〒604-8006 京都市中京区河原町三条上ル カトリック福音センター

Tel 075-229-6800 Fax 075-256-0090 E-mail fukuin@kyoto.catholic.jp



かつて宣教師たちの姿に感銘をうけ、教会の門をたたいた人々も多かったにちがいない。今、その宣教師たちの数が減る一方、滞日外国人は確実に増えている。新しい状況のなかで京都教区は「共同宣教司牧」を目指す。

天田 茂 (山科教会)

わたしにこの課題が与えられ、「わたしの福音宣教」とは何だろうとずっと思い悩んでここ2カ月が経過した。

格調高い信仰の話？ かわい話？ 人に笑われないような話？ いやそんなの無理だと悟ったわたしはごく自然体でありのままを自分の言葉で書けばよいのだと悟った。

#### 宣教師たちに魅せられ…

わたしの信仰の原点はどこにあるのだろう、と考えるとそれは生れ故郷のびわ湖畔に建つ坂本教会（現唐崎教会）を思い出す。わたしはここで働くメリノール会神父の影響を受けたのである。当時は今でも忘れられない「少年の町」（1938年アメリカ）という映画が評判になっていた。そこに出てくるフラナガン神父のように、志高く純粋に使命感を持ちバイタリティー溢れる神父たち—しかも神父たちは愛する両親兄弟姉妹と母国をはなれ、神の福音を述べ伝えるためにやってきた—に心惹かれた。

ダニエル・シャーマン神父もその一人である。数年前、神父の金祝ミサに与った時も「シゲチャン」といたずらっぽくドアを開け

再会を最大限喜んでくださった。

わたしはいつも思う、若者とお年寄りは<教会の宝>だ。若者には未来に対する夢と希望、現在を生きる活力があり交わりを通じエネルギー・元気を貰うことができる。お年寄りには若者にはない経験・知恵・洞察力を学ぶことができる。

#### 世代を超えた関わりのおかげ

これらの人々との、分け隔てのない交わり、友情を通じそれらがいかにかげがえのない大切なものであるか、わたしは認識する。

決して自分の信仰・教会をひけらかすのではなく、あくまで内面に秘めて、それは自分にさえ卑怯と思われる嫌いがいいではないが、結果として、「あなたは〇〇ですか？」「〇〇ですね？」といわれ「はいそうです」と誠実に告白する、そう思うのである。

<生涯学習>を実践するわたし、そう、多くの若い友人に恵まれて<万年青年>を自負するワタシ、一方で学問や趣味を通して自分の年代以上の高齢の多くの方とも交流しバランスするわたし。

#### 福音センター研修会（予告）

『カトリック教会の教え』に親しもう（Ⅲ）を、今年は10月29日（土）に河原町会館6階で行います。「キリスト者の倫理」のなかで特に「性の倫理」を、南山大学教授で執筆者でもある浜口吉隆師にお話いただきます。

詳細は「時報9月号」でお知らせします。お早めにお申し込みください。

## 2005年 ブロック司祭配置一覧

2005年8月1日現在

## 京都北部地区

宮津ブロック  
共同宣教司牧網野 岩滝 加悦  
丹後大宮 峰山 宮津

三輪周平

舞鶴ブロック  
共同宣教司牧綾部 西舞鶴 東舞鶴  
福知山 報恩寺福地幹男  
M. フォールテン

## 滋賀地区

湖西ブロック  
共同宣教司牧

大津 唐崎 安曇川

瀧野正三郎  
三宅秀和湖東ブロック  
共同宣教司牧

草津 甲賀 彦根 長浜

J. ジャクソン  
R. デ・ヴァルス

## 京都南部地区

## 北ブロック共同宣教司牧

衣笠 小山 西陣 西院 宇津 山国

花井拓夫 ルカ・ホルスティンク  
エルメル・ディマルクト(協力、9月から担当司祭)

## 西ブロック共同宣教司牧

桂 九条 長岡 丹波

福岡一穂 村上真理雄

## 東ブロック共同宣教司牧

河原町 北白川 高野 山科

浅田年生 外崎 豊  
森田直樹

小野十益(協力) Y. ボアベール(協力)

## 南ブロックA 共同宣教司牧

伏見 桃山 八幡

東門陽二郎 J. A. ロベス

## 南ブロックB 共同宣教司牧

宇治 青谷 田辺 精華

北村善朗

奥村 豊 一場 修

## 奈良地区

## 北部ブロック共同宣教司牧

富雄 登美ヶ丘 奈良 大和郡山

西野猛生 P. ウィックス  
マルコ・アントニオ・ナバロ S. ニュージェント

## 南部ブロック共同宣教司牧

御所 西大和 大和高田 大和八木

K. タロク J. ウォルシュ  
アキリノ・タバモ J. ヒル(協力)

## 三重地区

## 北勢ブロック共同宣教司牧

桑名 四日市 鈴鹿 亀山

村上透磨 A. バルデス E. モンリアル

## 中勢ブロック共同宣教司牧

上野 名張 津 久居

R. ネリグ B. ニシムラ J. ハメル(協力)

## 南勢ブロック共同宣教司牧

伊勢 松阪

柳本 昭 R. ザーン

### 教区委員会担当司祭

(2005・8・1現在)

#### 〈教区総括関係〉

▼「教区司教・教区長」 大塚喜直

▼「司教総代理」 村上眞理雄

▼「司教顧問会」

大塚喜直(法人代表役員)、

村上眞理雄、北村善朗、花井拓夫、柳本昭(以上4名法人責任役員)

東門陽二郎(司教顧問・京都南部地区区長)、瀧野正三郎(司教顧問・滋賀地区区長)

小野十益、西野猛生(以上2名監事)

▼「司祭評議会常任委員会」

法人代表役員、法人責任役員4名、司教顧問2名

三輪周平(京都北部地区区長)、K・タロク(奈良地区区長)、R・ネリグ(三重地区区長)

▼「司祭評議会」

司祭評議会常任委員会委員全員、地区選出 奥村豊、外崎豊、渡辺幹夫、G・ラバディ(京都南部)、M・フォールテン(京都北部)、マルコ・アントニオ・ナバロ(奈良)、村上透磨、E・モンレアル(三重)、J・ジャクソン(滋賀)

▼「教区宣教司牧評議会」

地区長 東門陽二郎、三輪周平、瀧野正三郎、K・タロク、R・ネリグ

職務上 大塚喜直、村上眞理雄、北村善朗

▼「教区本部事務局」

北村善朗(事務局長)

▼「教区委員会」

▼「教理委員会」(担当窓口)

東門陽二郎

▼「青少年委員会」

京都南部地区 奥村豊、エルメル・デイマルクト(9月1日付)

京都北部地区 未定

滋賀地区 瀧野正三郎

奈良地区 K・タロク、マルコ・アントニオ・ナバロ

三重地区 柳本昭、濱崎敦

教区中学生会 福岡一穂

教区高校生会 奥村豊

ワールドユースデー 一場修、マルコ・アントニオ・ナバロ

アジア体験学習

▼「カトリック正義と平和京都協議会」

▼「国際協力委員会」

J・A・ロベス、西野猛生

P・オヘール、柳本昭、アキリ

ノ・タバモ

ラテン・アメリカ人司牧

ブルーノ・ロハス、J・ハメル

フィリピン人司牧

ルカ・ホルステインク(PAG-ASAコミュニティ担当)

在日韓国人司牧

J・A・ロベス

▼「社会福祉委員会」 A・バルデス(カリタス・ジャパン京都教区担当者兼任)

▼「典礼委員会」 村上透磨、北村善朗、奥村豊、福地幹男

▼「聖書委員会」 村上透磨、北村善朗、エルメル・デイマルクト(9月1日付)

▼「信仰教育委員会」 北村善朗、松本秀友、一場修、三宅秀和(教会学校部門)

▼「衣笠墓苑管理委員会」 花井拓夫

▼「教区諸活動、諸組織」

▼「カトリック福音センター」

外崎豊、P・オヘール

▼「カトリック青年センター」

福岡一穂、奥村豊、森田直樹

▼「共同宣教司牧推進チーム」

西野猛生、福岡一穂

▼「生涯養成担当チーム」 村上透磨、松本秀友、P・ウィックス、外崎豊、森田直樹

▼「神学生養成担当」 北村善朗、松本秀友、福岡一穂、J・ウォルシュ

▼「教区時報」担当者

村上透磨、瀧野正三郎、外崎豊

▼「ホームページ担当者」 瀧野正三郎、外崎豊、J・A・ロベス

▼「歴史資料室(旧 資料委員会)」

教区本部事務局

▼「アジア交流委員会(KYOSIA)」 花井拓夫(京都済州姉妹教区交流部)

▼「神学生・司祭養成協力会(一粒会)」 小野十益

▼「祈祷の使徒会」

教区本部事務局

▼「諸宗教対話担当」 花井拓夫、ルカ・ホルステインク

▼「合同洗礼志願式担当者」 浅田年生、村上眞理雄、R・ザイン

▼「教区内・諸活動団体担当」

▼「希望の家」

村上眞理雄(担当司祭)

▼「JOC(カトリック青年労働者連盟)」 瀧野正三郎(京都・滋賀JOC)

▼「JOC大人のグループ」 西野猛生、瀧野正三郎

▼「カトリック学校連絡会」

大塚喜直

▼「日本カトリック看護協会」  
Y・ポアベール(京都教区担当司祭)

▼「カトリック幼稚園連盟」

小野十益

▼「日本カトリック保育施設協会  
(相談窓口)」村上眞理雄

▼「カトリック・スカウト(CBS)」未定

▼「カトリック教誨師(各府県教誨師連盟への派遣司祭)」  
花井拓夫(滋賀刑務所)

東門陽二郎(京都刑務所)

濱崎敦(奈良少年刑務所)

浅田年生(京都拘留所)

▼「レジオ・マリエ(京都コミチウム)」村上眞理雄

▼「子羊会(相談役)」外崎豊

▼「京都M.A.C」花井拓夫

▼「親交会」小野十益

▼「カトリック聴覚障害者の会京都グループ」柳本昭

＜外部団体教区代表＞

▼「大阪教会管区部落問題活動センター」西野猛生

▼「KCCカトリック京都司教区代表」ルカ・ホルステインク、

北村善朗

▼「JOCSS(日本キリスト教海外医療協力会)代表」J・A・

ロベス

奈良地区聖書講座

「みことばを生きるために」シリーズ3 テーマ「イエスとの出会い!」— 聖体年を生きる —  
(講座の全体を紹介します)

場所 奈良教会

主催 奈良カトリック協議会

6月10・11日 聖体年を生きる

6月24・25日 みことばとの出会い(1) 大塚喜直司教

7月8・9日 みことばとの出会い(2) 奥村 豊師

7月22・23日 聖体との出会い(1) 一場 修師

9月9・10日 聖体との出会い(2) 英隆一朗師

9月24日(23日の人は24日に合流) 北村善朗師

日常生活の中での人々との出会い(1) 本田哲郎師

10月7・8日 日常生活の中での人々との出会い(2) ルカ師

10月21・22日 日常生活の中での人々との出会い(3) 佐藤仁彦氏

11月11日・12日 自然との出会い(1) ルカ師

11月25日・26日 自然との出会い(2) 西野猛生師

良書紹介

『主日の聖書』

高橋重幸

(オリエンズ宗教研究所)

この優れた書は、すでに紹介されていたとばかり思っており、驚いていますが、あらためて紹介する必要がある程知られていないでしょう。

日曜日に朗読される聖書の重要性は、みことばがキリスト者の信仰の源泉であり、命であり、力であることは言うまでもなく、この福音の言葉の「コト」、出来事の「コト」を知ることが最も大切なことというべきです。

さてこの書は、主日と主な祝日の3つの朗読を全て見開きの2頁におさめて解説しています。御存知のように、典礼暦年はABC年にわけられ、この3年間を通して、マタイ・マルコ・ルカ、そしてヨハネの主要な個所が朗読され、イエス様の教えに触れることができます。

師は、聖書学者であり典礼学者として、又典礼生活を生活の中心としているトラヒスト修道者として、その体験からこの書を著されました。

以下、日本の典礼運動の中心にあり、優れた業績を残された

土屋吉正師の「すずめのことば」を紹介しましょう。

「著者自身の序説『典礼と神のことば』に述べられている通り、この神のことばの豊かさ、新鮮さを味わう一助となるようにこの意図を持って書かれたものであることです。典礼を良く準備して、豊かな実りが得られるように、又、その実りを説教や教話活動を通して広く分かち合うために、本書は大いに役立つと確信します。

なお著者の序説には、典礼と神のことばの関係が詳しく述べられていますから、まずその序説を熟読されるようにお勧めします。そしてその日の朗読個所の聖書のことばが福音を中心に典礼の出来事の中で絶えず新たに理解され、その時その場に参加する全ての人に救いの新しい出来事となり、こうして神のことばがそれぞれの人の生活に生き続けるためにも、本書が十分活用されることを願ってやみません。」とあります。

なお森一弘司教 日曜日の説教集(女子パウロ会)  
A年『大きな力に信頼して』  
B年『人の思いをこえて』  
C年『神のやさしさの中で』は、簡潔ですが森司教様。

## お知らせ

## 青少年委員会から

◆教区中学生広島巡礼4日(木)～6日(土)問合せ 福岡師または青年センター

◆高校生夏の合宿1日(月)～3日(水)三重県勢和村ふれあいの森 問合せ 奥村豊師

## 教区委員会から

◆聖書委員会▼聖書深読・聖書講座シリーズ8月はお休みです。

◆典礼委員会▼教会の祈りと聖体賛美式・主日のミサ 第1日曜日17時半 河原町教会

## ブロック・小教区から

◆京都北部宮津ブロック中高生サマーキャンプ17日(水)～18日(木) 場所 京丹後市網野町・日本海牧場キャンプ場 対象 中学1年生～高校3年生 指導 谷口秀夫師

◆河原町教会練成会11日(木)～13日(土) 場所 京都府日吉青少年山の家

◆京都南部南ブロックA教会学校合同キャンプ18日(木)～20日(土) 場所 アクトバル宇治

◆京都南部南ブロックB合同夏期教会学校5日(金)～6日(土) 場所 精華教会および精華聖マリア幼稚園

◆滋賀湖西ブロック3教会合同「カトリック・サマーキャンプ」8月18日(木)～20日(土) 場所 大津市立葛川少年自然の家

## 修道会から

◆聖ドミニコ女子修道院▼「ロザリオを共に祈る会」19日(金)10時半 当日どなたでもどうぞ。問合せ075(231)2017

## 諸施設・諸活動から

◆JOC▼働いている青年の集い。集会場所 京都働く人の家(九条教会前)、滋賀働く人の家(大津教会裏)。連絡先090(8207)1831

◆おてんととうさんの会▼例会第3金曜日13時 西院教会

◆カトリック聴覚障害者の会京都グループ▼8月はお休み

◆京都カトリック混声合唱団▼練習日第2日曜日14時、第4土曜日19時 河原町会館6階

◆京都カナの会▼8月はお休み

◆京都キリシタン研究会▼南蛮寺跡でのミサ28日(日)14時 場所

## 平新

◆子羊会合宿8月27日(土)～28日(日) 場所 かんぼの宿有馬

◆コロチエレスト▼練習日第2、4木曜日

◆在世フランススコ会京都兄弟会▼8月はお休み

◆聖ヴィンセンシオ・ア・パウロ会▼河原町協議会7日(日) 河原町教会

◆二金会▼7月・8月はお休み

◆糠みその会▼25日(木)19時半 九条教会ホール

◆レジオ・マリエ▼21日(日) 河原町会館6階ホール

◆心のともしび 8月番組案内

▼テレビ KBS京都テレビ

▲7日の放送内容▼  
麻薬で人間が減じる。国連にケン撲滅計画を提出し、ミャンマーのケン畑をベニバナ畑や果樹園に替える活動をしている佐竹さんに伺う。

▼ラジオ KBS京都ラジオ

8月のテーマ「雰囲気」

問合せ075(211)9341

◆「一万匹の蟻」運動基金報告 累計 44,517,719円

◆希望の家創立者デイフリ師の追悼ミサ▼27日(土)18時半 場所

## 地域福祉センター希望の家ホール

## 平和旬間行事

◆京都南部東ブロック▼平和祈願ミサ/平和行進7日(日)15時 司教司式平和祈願ミサ 場所 河原町教会 17時 平和行進(河原町教会から円山公園)

◆京都南部西ブロック▼ミサ及び講演会7日(日)10時 場所 九条教会 講演「地球温暖化および水質汚染について」講師 西野猛生師

▼「平和を作り出すキリストと市民の集い」7日15時 場所 日本基督教団桂教会 講師 ヒュー・ブラウン牧師(元テロリスト、日本伝道隊西播磨キリスト教会)

◆奈良地区▼講演会7日(日)14時 場所 奈良教会信徒館 講演「外国人労働者が抱えている問題とカトリック教会ができること」ーわたしたちにとってカトリック教会は心の居場所ー 講師 オチャンテ・ロサさん(三重大学大学院人文社会科学研究所修士課程に在籍)

## 大塚司教の

8月のスケジュール

4日(木) 比叡山平和の祈り15時

4日(木) 6日(土) 教区中学

生広島平和巡礼

7日(日) 教区一斉平和祈願ミサ

(河原町)

平和祈願ミサ15時

平和行進17時

9日(火) 27日(土) ワールド

ユースデーケルン大会

28日(日) 教区教会学校研修会

30日(火) 9月1日(木) 教区

神学生夏季合宿

司祭の任命 (7月10日付)

森田直樹師

京都南部地区東ブロック担当

司祭

生涯養成担当チーム担当司祭

青年センター担当司祭

◆お詫びと訂正

▼332号(7月号) 9ページお  
知らせの聖書講座27・28日はSr小  
久保喜以子の間違いで、沼野尚美  
氏は9月28・29日でした。お詫び  
して訂正いたします。

## 三重地区聖書講座

(講座の全体を紹介します)

6月18日(土) 中勢ブロック

オヘール師 場所 津・研宗館

7月23日(土) 南勢ブロック

大塚司教 場所 伊勢教会

10月29日(土) 北勢ブロック

雨宮泰紀師 場所 四日市教会

## 表紙の絵の解説

この絵は、アイヘンバグと  
いう挿し絵画家が描いたもので  
す。彼はニューヨークのスラム  
街で炊き出し風景を見ていまし  
た。カトリック教会のシスター  
やボランティアの信徒たちが、  
ホームレスの人たちのために炊  
き出しをして食事を配っている、  
ホームレスの人たちは長い行列  
を作って自分の順番が来るのを  
待っている、そういう風景です。  
彼はそれを見ていて、イエス様  
はどこにおられるのだらうと考  
えました。そして、イエス様は、  
炊き出しをしているシスターや  
信徒たちの中ではなく、並んで  
食事を待っているホームレスの  
人たちの中にあると感じて、こ  
の絵を描きました。

## 中学生広島平和体験のお知らせ 白濱みゆき

来たる8月4日(木) 6日  
(土) に広島へ平和巡礼に行っ  
てきます。テーマは『戦後60  
年、戦争を知らない子どもたち、  
戦争を知らないおとなたち』ど  
うして平和を求めたのか?』で  
す。感受性の高い中学生にそれ  
ぞれの思い出に残る夏にしてほ  
しいと思っています。

また毎年夏休みのセンターの  
中学生の行事としては夏合宿が  
ありますが今年は諸事情により  
中止いたします。しかし、その  
分リーダーの全力を広島平和体  
験学習に費やしました。夏合宿  
に関しましては賛否両論ありま  
すがみなさまのご理解、よろし  
くお願いします。

以前「戦争を知らない子ども  
たち」という歌がありました。  
その時は「子どもたちは戦争を  
知らないのだから、子どもたち  
に伝えよう」という想いがあっ  
たと思います。しかし今は子ども  
だけでなく、大人も知りま  
せん。第二次世界大戦のことを  
伝えられる人が少なくなってい  
ることが現実です。では私達は

これからどのようにして戦争の  
ことを次世代に伝えていけば良  
いのでしょうか。原子爆弾が投  
下された事実をどう説明すれば  
よいのでしょうか。平和って一体  
なんなんだ? ジレンマに陥り  
そうなのですが、当然だと思っ  
ていた事に疑問を持ってみて一  
度しっかり考えたい。今年のテ  
マにはそういったリーダーたち  
の熱い思いがよせられています。  
8月です。夏休みです。遊び  
たいです。でもそんな中でしっ  
かりと考えることに感謝したい  
です。ぜひ、中学生のため、教  
区の青年活動のためお祈り下さ  
い。中学生広島平和体験学習が  
実りあるものになりますように。

お問い合わせは京都カトリック  
青年センターまで。

電話 075(414)6239

FAX 075(414)6239

e-mail

seinen@kyoto.catholic.jp

青年センターあんでな